

令和4年度 学校経営計画

1 目指す学校

スクール・ミッション

民主的で平和な社会の実現に貢献する人材、「生きる力」を備えた人材、基礎学力を身に付け英語・簿記会計・情報処理のビジネス三言語を活用できる人材、自己実現に向けて努力し国際社会に羽ばたく人材を育成することを目指し、商業教育を核とした教育活動を通して、社会人基礎力を備えた生徒を育成する。

スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

将来の自己実現に向けた高い志と目標をもって、知識や技術の習得を目指し、学ぶ楽しさと学ぶ意欲に溢れ、望ましい職業観・勤労観・社会観をもった生徒を育てる。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ① 1年次に「ビジネス基礎」「簿記」「情報処理」の3科目を設置し、ビジネスの基礎基本を身に付ける。
- ② 2・3年次に多様な商業選択科目を設置し、将来の進路や自らの興味・関心に応じて選択できるようにする。
- ③ 様々な検定や資格取得に取り組む科目を設置し、希望進路の実現と社会人としての適性を高める。
- ④ 「英語コミュニケーションⅠ」「簿記」「ビジネスアイデア」「財務会計Ⅰ」等で少人数授業を実施する。

(3) アドミッション・ポリシー

本校の期待する生徒の姿

- ① 商業高校としての本校の教育内容を理解し、目的意識をもって、入学を強く希望する生徒
- ② 商業科目やコンピュータ利用に興味・関心があり、これらに関する検定・資格の取得に意欲的な生徒
- ③ 各種の検定・資格の取得に熱心に取り組んできた生徒
- ④ 生徒会活動、学校行事、ボランティア活動、部活動等に積極的に取り組み、入学後も継続していく意欲のある生徒
- ⑤ 自分の可能性を最大限に引き出し、理想や夢をかなえようと努力する生徒

目指す学校に向けて

- (1) 教職員が社会人や指導者としての範を示して、学校を挙げて生徒に生活規律や授業規律を遵守させ生命尊重及び他者の痛みが分かる思いやりの心や道徳心、社会人基礎力を醸成する。
- (2) 学校と保護者や同窓会、地域の関係者が連携し、社会問題や環境問題、自然災害・人的災害に対して問題意識をもち、適切な行動の取れる社会に有為な人材を育てる。
- (3) 生徒が将来の自己実現に向けた高い志と目標をもって知識や技術の習得を目指し、学ぶ楽しさと学ぶ意欲に溢れ、望ましい職業観・勤労観・社会観をもった生徒を育てる。
- (4) 学習活動、LHR、行事、部活動を通して学校への帰属意識を向上させるとともに、充実感や達成感を高め称賛することにより、自己有用感や自己肯定感を醸成する。
- (5) BCP(Business Continuity Plan 事業継続計画) 分掌業務における役割分担において、主担当や副担当の整備により、緊急事態におけるリスクを回避する体制を構築する。

2 中期的目標と方策

- (1) 生徒に礼儀や挨拶、身だしなみ、時間管理など集団生活を送る上で必要なルールや社会常識を身に付けさせ、思いやりの心や規範意識、ものや資源を大切に作る心、災害時の身の処し方や高校生として人として取るべき行動の育成・指導に保護者や地域と連携して学校全体で取り組む。(生活指導)

- (2) 生徒の能力・適性・興味・意欲・関心・進路に応じた教育活動に取り組む。キャリア教育を推進し職業観、勤労観を育む。授業時間を確保し、高校生としての基礎的学力や一般常識力を高め、ビジネスマナーとコミュニケーション能力を身に付けさせる。(学習指導、進路指導)
- (3) 個に応じた学習指導を徹底し、学習到達の証としての資格取得者を増加させる。1 学年からビジネス GP 等を周知して、資格取得における上位級取得を目指し、グローバル化を見据えた卒業後に活用できる資格やより高度な資格取得を目指した指導を行う。(学習指導、進路指導)
- (4) 行事や部活動の活性化を目指し、担任や部活動顧問の関わりを強める。文化祭や体育祭などの行事を通じて生徒の自主性・創造性を育てる。(特別活動・部活動)
- (5) 自他の安全を守り、健康を保持・増進し、基礎体力を向上させる知識や態度を育てるため、保護者や関係機関と連携して学校全体で取り組む。(安全指導、健康指導、保健指導)
- (6) 就職希望者と進学希望者の希望進路実現 100%に学校全体で取り組み達成する。(進路指導)
- (7) 積極的に地域貢献や地域との連携を行い、開かれた学校を推進する。(地域連携)
- (8) 学校内外の学校説明会、学校見学会、授業公開、体験授業、出張授業など積極的に取り組み、本校の教育活動の広報と、本校への入学希望者・志願者を増やしていく。(広報・募集活動)
- (9) 生徒による授業評価、学校運営連絡協議会の評価を活用して、授業などの教育活動や学校運営の改善を図る。(授業改善・学校運営・組織体制)
- (10) 学校における働き方改革推進プランに基づき、職務に対する効率化を進め、教職員のワーク・ライフ・バランスの推進に努める。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

- ① 学習指導 ⇒ 生徒の学力向上を目指し、興味・意欲・関心に応じた指導を適切に行い、基礎学力充実を図る。スクール・ポリシーを踏まえ、「基礎」を確実に身に付けさせる。Society5.0 を見据えた東京スマートスクール構想、東京都教育ビジョン(第4次)(令和元年6月策定)及び「未来の東京」戦略(令和3年3月策定)等に基づくデジタル技術を活用した教育の推進に関する取組目標、新型コロナウイルス対応を見据えたオンライン学習に向けた整備を進める。
 - a. 「生徒が分かる授業」を目指して、指導内容や指導方法の改善、ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の手法を取り入れて授業力向上を図る。補習・補講の実施による生徒一人一人のレベルに応じた指導を徹底する。読書活動の推進に取り組み、読解力向上と将来にわたって学習を継続する力を高める。また、生徒の学習成果や活躍を報告する機会を作る。
 - b. 生徒が自主的に学習する意識や態度を育て、毎日の家庭学習の習慣化・定着化を図り、家庭学習ゼロの生徒をなくすよう授業の工夫や指導を徹底し、生徒の学力向上を図る。
 - c. シラバス、週ごとの指導計画、生徒による授業評価などを活用し、意図的・計画的な授業を行う。校内研修を充実させ、授業改善を推し進め、授業力を向上させる。
 - d. 教科「人間と社会」や、環境保全活動を通して生徒の社会貢献への意識と資質を高める。
- ② 進路指導 ⇒ 全ての生徒の進路実現と将来の自己実現に向けた指導を行う。
 - a. 進路指導部が3年間を見通した進路指導計画を作成し、担任・教科・進路指導部が一体となって生徒の進路意識の啓発と進路実現に向けた指導の徹底と企業が求める人材の育成を図る。
 - b. 1 年次からのキャリア教育を充実させ、外部との連携を交えて卒業までに計画的・意図的に社会に貢献できる人材を育成する。
 - c. キャリアパスポートにより、資格取得や行事、部活動等への取り組みや振り返りにより自己評価をする。また、さまざまな行事や活動ごとに記録を文章としてまとめる。記録性を高めるとともに、発

表の機会を設けることで生徒の自己肯定感や達成感及び成就感を高めることにつながる。

d. 大学・企業・地域の商店街などとの連携を積極的に進め、生徒の進路意識を高める。

③ 生活指導 ⇒ ルールとマナーを守ること、けじめある生活と規範意識を高める指導を徹底する。

a. 生活指導部を中心に全教員で、基本的生活習慣の確立を教育活動の全てを通して推進する。

b. 挨拶、制服の正しい着用、頭髪や身だしなみ指導、効果的な遅刻指導、授業規律の確保に取り組む。

c. セーフティ教室・防災訓練などを活用し、生徒への安全教育や学校の安全管理を徹底する。

d. 自転車通学者の安全の確保のため、交通ルールやマナーの遵守を徹底させる。

④ 特別活動・部活動 ⇒ 信頼関係に基づき、指導を組織的・計画的に行い、いじめ・体罰を根絶する。

a. 担任及び副担任や教科担当を中心に教職員全員でホームルーム活動・生徒会活動に関わり、体育祭・文化祭をはじめ、様々な学校行事の充実と活性化を図る。いじめアンケートを年3回以上実施する。

b. 顧問は常に部活動に係わり指導にあたる。学校中心の生活を送らせるため、部活動の実稼動人数を増やし、活動の活性化と充実を図る。

⑤ 健康づくり ⇒ 健康に過ごしていくための意識啓発と環境づくりの指導を行う。

a. 保健室の機能を強化し、学年や担任との連携を図り、生徒の健康保持増進を図る。自殺対策基本法（平成18年法律第85号）及び自殺総合対策大綱（平成29年7月閣議決定）に基づく生徒の自殺対策に資する教育を推進し、生徒の実態に応じた心身のケアに万全を期す。またスクール・カウンセラーを活用して、生徒の心身のケアに努める。一方、新型コロナウイルス感染防止に向けて、ICTを活用し、家庭と連携して生徒の体調管理を進める。

b. 保健部を中心に校内美化とごみの減量化、リサイクルに取り組む。

c. 「TOKYOACTIVE PLAN for students」（令和3年3月策定）（総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画））に基づき、基礎体力向上に保健体育科や運動部の顧問を中心に取り組む。

⑥ 募集・広報活動 ⇒ 本校の教育活動を広く発信し、地域に信頼され求められる学校を目指す。

a. 中学校への出張授業や進路説明会参加、本校に中学生やその保護者、中学校教員、私塾関係者などを招いての広報活動を活性化し、募集活動を積極的に行う。

b. リニューアルしたHPにより、本校の教育活動を適時発信し、学校理解や募集対策に資する。

c. 公開講座や学校の施設開放を実施し、開かれた学校づくりや地域との交流を推進する。

⑦ 学校経営・組織体制 ⇒ 上記目標をより効果的に実現するため、組織体制の構築を行う。

a. 企画調整会議を学校運営の中核として充実させ、教育活動を円滑に進める。

b. 予算調整会議を充実させ、予算執行の進行管理、施設・設備の維持管理を的確に行う。

c. 教員の分掌における職務及び業務の平準化に努め、特に学級担任の負担軽減を図り、分掌間の格差を解消するとともに、「学校における働き方改革推進プラン」（平成30年2月策定）に基づく教職員のライフ・ワーク・バランスの推進に努める。

（2）重点目標と方策

① 生徒の進路実現のための取組

a. 家庭学習の習慣化と、全ての生徒の能力・適性・興味・意欲・関心などに対応した授業や個別指導の取組、放課後・長期休業中・週休日などを活用した補習や補講を計画的に実施する。生徒の基礎学力の定着を図ると共に、新型コロナウイルス感染防止等緊急時におけるオンライン学習の準備を組織的に進める。

b. 進路指導部を核に全教員で面接指導に取り組む。組織的・計画的な朝学習の実施や普通教科を中心に基礎学力の定着と向上、一般常識力の指導を強化し、採用試験や上級学校進学対策を行う。また、就職及び進学におけるオンライン面接の環境整備と指導体制を整える。

c. 1・2年生を通して、情報処理検定2級合格者70%以上、簿記検定2級合格者70%以上、全商英

語検定 3 級合格者 70%以上に取り組む。さらに、生徒の進路・能力・適性などに応じて、より高度な資格や社会の実態に即した資格の取得を目指した指導を行う。図書室の活用や長期休業中の読書指導を進める。

② 規律ある学校生活への取組

- a. 生活指導部が中心に担任と連携を図り、全校を挙げて、服装・頭髪・身だしなみ・言葉づかい・挨拶・授業規律などに対して注意・指導を励行する。
- b. 登校時間や授業開始チャイム着席など時間を守らせ、遅刻のないけじめのある学校生活を送らせる。登校時間に遅刻させない指導を進めるとともに、実効性のある指導により、常習化する遅刻者の数を 1 日 10 人以下とする。また、授業担当者は授業規律の確保とチャイムと同時の授業開始、遅刻者への指導を励行する。
- c. 部活動活性化のために、外部人材活用も踏まえ顧問は部活動や部員の掌握・指導に努める。

③ 募集対策のための取組

- a. 地域行事への生徒の参加、教職員や生徒による中学校訪問を通じて、本校の教育活動や商業高校の特色・有利性を広く地域や中学校の生徒・保護者・教職員にアピールする。また、リニューアルしたホームページにより、分掌からの情報提供や本校生徒の活動を中心に広く P R する。
- b. 中学生対象の出張授業、体験授業、体験入部、学校説明会の複数回の実施。中学校や学習塾主催の入試説明会の参加など精査して実施する。江東区内や近隣中学生などを対象とした部活動体験や交流試合を計画・実施する。